

「研究のうごき第17号」の刊行に寄せて

「研究のうごき」は平成15年から毎年刊行しています中央水産研究所の広報誌です。本誌の書き手は、若手、中堅、ベテランと多彩ですが、いずれもプロフェッショナルの研究者です。プロの研究者は、常に新しいことを追い求め、少しでも高みを目指して日々研究活動に取り組んでいます。



本誌の目的は、専門家でない皆様へ科学的なトピックをご紹介します。それらを通じて科学の良さや面白さ、感動を皆様にお伝えすることです。皆様に私たちの研究をご理解いただき、私たちのサポーターになっていただくことです。

本誌のモットーは、時に難解な研究成果を平易な言葉で語ることです。高校生くらいの語彙力で理解いただけることを意識しています。原則1つのトピックを1ページで、文字は少なく写真や図を使い簡潔に記述します。研究者がわかりやすい言葉で自分の研究を皆様にお伝えすることは、研究者自身にとっても大事な訓練だと私は思っています。

「中央水研ってこんなことを研究しているんだ。なるほど役に立っているんだ!」というお言葉を皆様から頂戴できますように、紙面作りに励みます。本誌についてご意見、ご要望、お気づきの点がございましたら、ご遠慮なくお寄せください。

今後とも中央水産研究所をご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

令和元年9月
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所
所長 前野 幸男



表紙写真：(提供)

1. 表層海水温の、加入量への影響 (中山新一朗);
2. 麻痺性貝毒簡易分析キット (及川寛);
3. 都井岬沖黒潮流路予測の予測精度 (瀬藤聡);
4. 北海道産エゾアワビ (關野正志);
5. イワナ稚魚を捕食するアオサギ (宮本幸太)